

GrayZone

AUGUST 18, 2022

[Ukraine war veterans on how Kiev plundered US aid, wasted soldiers, endangered civilians, and lost the war](#)

LINDSEY SNELL AND CORY POPP

**ウクライナの兵士が語る：キエフはいかに米国の援助を略奪し、兵士を浪費し、市民を危険にさらし、戦争に負けたか**

**リード**

「武器は盗まれ、人道支援は盗まれ、この国に送られた数十億ドルはどこかに行ってしまった」と、ウクライナ元兵士たちは The Grayzone に訴えた。

**以下本文**

## **1. イワンのケース**

7月に Facebook のメッセージャーで送られて来たビデオがある。

イワンが自分の車（2010年代初期モデルの三菱のSUV）の横に立っているのが見える。リアウィンドウから煙が立ち上っている。

イワンは笑いながら、携帯のカメラを車の前から後ろにパンし、弾痕を指さす。「ターボチャージャーが壊れたんだ」彼はそう言って、今度は携帯を車の前方に向けた。

「司令官は自分で修理するよう言っている。だから、戦争で自分の車を使うには、自分のお金で新しいターボチャージャーを買わなければならないんだ」

イワンはカメラを自分の顔の方に向けた。「このクソ国会議員どもめ、ヤッつけてやる！ 畜生め！

お前らがオレたちのところに来やがれ」と言った。

先月、ウクライナの国会議員たちは、お手盛り投票で、自分たちの給料を70%アップさせた。資料によると、この引き上げは、アメリカやヨーロッパから流れ込んだ数十億のドルやユーロの援助によって賄われたものだ。

**「オレたちウクライナの兵士は何も持っていない」**

イワンは言う。

「兵士たちが戦争で使うための物資は、すべてボランティアから直接来たものだ。外国から政府に行く援助は、決してオレたちには届かないのだ」

イワンは2014年から兵士として活動している。現在、彼の部隊はドンバス地方に駐留している。彼らは小型の民生用ドローンを使って、ロシア軍の砲撃位置を特定する任務を担っている。

「今、最前線では多くの問題がある。まずはインターネットに接続できないことだ。だから基本的にリアルタイムの仕事はできない。モバイル端末を電話線に接続するために、車を走らせなければならないんだ。想像できるかい？」

イワンの部隊に所属する別の兵士が、ドンバスの前線近くの塹壕から撮影したビデオを送ってきた。彼は言う。

「資料によると、その塹壕は政府が造ってくれたそう。でも見れば分かるだろう。頭上には数センチの木の覆いがあるだけだ。ロシア軍は一度に何時間も砲撃してくる。これで戦車や大砲の砲撃から身を守るんだ。間違い沙汰だ。

オレたちの今いる壕は自分たちで掘ったんだ。5人の兵士のうち2人しかAK-47を持ってない。それも土埃のせいで常に故障している。ほかは丸腰だ。

オレは司令官のところに行き、丁寧に状況を説明した。

“この位置が戦略的に重要なポイントであることは理解している。しかし、もう守りきれない。我々の部隊は壊滅状態で、救援も来ない。10日間で15人の兵士がここで死んでいる。すべて砲撃と榴散弾でやられた”

オレは司令官に頼んだ。「もうちょっとマシな壕がほしい。そのために重機を貸してくれないか」

司令官はこう答えた。「ロシアの砲撃で重機が損傷する恐れがあるから断る」

彼はここで15人の兵士が死んだことを気にしないのだろうか」

オレたちは戦争するのに自家用車を使い、修理代や燃料代も自分たちで負担しているんだ。防弾チョッキもヘルメットも自分たちで買っている。想像してくれ。もしアメリカ兵がこのことを聞いたら、正気じゃないと思うだろうね。

観測機器もカメラもないので、だから兵士は頭を出して何が来るか見なければならぬ。ということは、いつロケット弾や戦車に首を切り落とされるかもしれないんだ」

## 2 . イリヤのケース

イリヤ\*はキエフ出身の 23 歳の兵士。彼の部隊はドンバス地域の別の場所でイワンと同じ状況に直面している。

彼は戦争が始まってすぐにウクライナ軍に入隊した。彼は IT の知識があり、そのような専門知識が求められていることを知った。

「もし、この軍隊にこれほどの欺瞞があり、そのすべてがボクラの責任になると知っていたら、決して入隊しなかったでしょう。家に帰りたけれど、逃げたら刑務所行きだ」

イリヤたち部隊の兵士には、武器も防具もない。彼は言った。

「ウクライナでは、戦争中であっても人々はお互いを騙し合っている」と

「寄贈された医薬品が持ち去られるのを見たことがある。私たちを運ぶ車も盗まれた。今までに 3 回休務入りしているはずなのに、3 ヶ月間新しい兵士と入れ替わらないのだ」

## 3 . 米国人医師サマンサ・モリスのケース

メイン州出身の医師サマンサ・モリスは、兵士の医療訓練に協力しようと、5 月にウクライナへやってきた。

「ポーランドから初めて国境を越えたとき、医療品をマットレスやおむつの下に隠さなければなりませんでした。盗まれないようにするためです。」

ウクライナ側の国境警備隊は、『戦争に必要だから』と言いながら物資を押収して、そのままネコババして転売してしまうんです。正直なところ、寄付をする相手に手渡して渡さないと、品物は届かないんです」

モリスをはじめとする数人のアメリカ人医療関係者は、ウクライナ北東部の中都市スミでトレーニングコースを開催するようになった。

「ウクライナ側から提供されたのは食事と宿泊だけでした。宿泊は研修先と同じ公立大学でごろ寝でした。

スミの市長には地元の実業家がついていて、この実業家を、私たちとスミ市の間で"連絡役"として契約に加えるよう要求してきたのです」

実業家は"連絡役"として、契約の何割かの手数料をもらうことになっている。

「私たちの弁護士は、この実業家を契約から外すように交渉しました。しかし、スミの市長は頑として譲らない。結局、私たちはトレーニングができるように契約書にサインをすることになりました」

### **"誰もが嘘をついている"。米国人医師が語る衝撃的な腐敗**

ウクライナで過ごした2ヶ月の間に、モリスさんは数え切れないほどの窃盗と汚職に遭遇したという。

「スミの軍事基地の主治医は、さまざまな時点で軍に医療品を発注しています。ある日トラック15台分の物資が完全に消えてしまいました」

彼女が訓練プログラムを卒業した兵士に渡すつもりだった軍用救急箱が盗まれたのである。その数日後、彼女は同じ救急箱が地元の市場で売られているのを見ました。

「これは別な話ですが、ドニプロにある軍事病院の看護師から電話がありました。病院の事務長が痛み止めを全部盗んで転売してしまい、そこで治療を受けている負傷兵の痛みを和らげることができないと言うのです。

彼女は私たちに、痛み止めの薬を手渡しで渡してくれるよう頼みました。病院長から隠して、兵士に届くようにすると。

しかし、誰を信じればいいのでしょうか？ 事務長が本当に薬を盗んだのか、それとも看護婦が私たちに騙して痛み止めを渡し、それを売ったり使ったりしようとしたのか。

誰にもわからない。誰もが嘘をついているのです」

横流しされた防護服や戦闘用医療品は、ウクライナのオンライン市場に溢れている。売り手は自分の身元を隠すために注意深く、販売のたびに新しい業者アカウントを作り、郵便のみで注文に応じようとする。

#### 4 . いま一度、イワンのケース

イワンは言う。

「アメリカから援助された装甲ヘルメットがウェブサイトで売られているのを発見した。ヘルメットの内側に、保証クラスとブランドが書いてあるんだ。そのブランドを見れば援助物資のヘルメットだとわかる。オレの仲間は売り手と連絡を取って、面会の約束をしようとした。しかし、彼らは不審に思い、私たちに反応しなくなった」

それだけではない。イワンは、西側諸国から寄贈された武器が盗まれたという話も聞いたことがある。自分の部隊では数人の兵士で1丁のAK-74を共有しているだけなのに。

「そもそもウクライナ兵の手元に武器が届くことはないのだから、彼らがどうやって武器を盗んでいるかなんてわからない。もし、ロシアと戦うため携

帯の対戦車砲やライフル以上のものが提供されるのなら。盗むには大きすぎる武器になるはずだ」

**ウクライナ人、欧米の援助を嘲笑。"彼らは私たちに勝ってほしいとは思っていない"**

イワンは、ウクライナの戦争勝利の可能性を楽観視していない。

「ドンバスは我々の手には残らない。ロシア軍はドンバスを破壊するか、すべて制圧し、その後南部に移動するだろう。すでに現状では、ドンバスに残った民間人の8割がロシアを支持し、我々の位置情報を全てロシアにリークしていると言っている」

アメリカやヨーロッパ諸国は、本当にウクライナの勝利を望んでいると思うかと尋ねると、イワンは哄笑した。

「いや、彼らは私たちに勝ってほしいとは思っていないと思う。欧米は我々に武器を与えて、ロシアより強くすることもできるが、そんなことをしているようには見えない。

ポーランドやバルト諸国なら、100%私たちに勝ってほしいと思っているだろう。でも彼らの支援する力は十分とは言えない」

## 5 . ジャーナリスト、アンドレイのケース

ミコライフ在住のウクライナ人ジャーナリスト、アンドレイは、「アメリカがウクライナの勝利を望んでいないことは明らかだ」と語る。

「彼らはロシアを弱体化させたいだけなのだ。この戦争には誰も勝てないが、米国がおもちゃのように扱っている国々は負けるだろう。

その理由は不正と内部腐敗にある。戦争支援にまつわる汚職は衝撃そのものだ。武器は盗まれ、人道支援も盗まれ、この国に送られた数十億ドルがどこに行ったのか見当もつかない」

アンドレイは、特に国内避難民に対する思いやりの欠如に愕然としている。

「なぜ皆がヨーロッパに行きたがるのか、不思議でなりません」と彼は言う。

「例えば、ドニプロの近くに難民センターがありますが、大きなオープンルームに45~50人が入っていて、バスルームと小さなキッチンが1つずつなのです。しかも、そこに着いた避難民は、たった3日しか滞在できません。ひどい状況です。お金も服も何もなければ3日後に追い出されます。その後は危険な地域の自宅に戻るしかないのです。

兵士が必要なものを持たず、民間人が安全に滞在できる場所もないのに、援助金はどこに行ったのかと政府に問わねばなりません」

### **厳しい現実を、妄想と勝利至上主義で覆い隠す外国人記者たち**

戦争が始まる前、アンドレイはウクライナの汚職や悪徳政治家について数年間取材していた。オデッサの政府高官を調査した結果、妻と幼い娘が殺害予告を受けた。このため、アンドレイは妻と娘をフランスの親戚の家に預けた。

「ウクライナは一応民主国家でしょう？ だから、政府が公式な形で圧力をかけてくることはないんです。その代わりに、まず、やめろという電話がかかってくる。

そして、お金を出すからやめなさいという。買収を断ると、そこから先は攻撃を受けることを覚悟しなければならない。真のジャーナリズムはここでは危険なことなのです」



戦争が始まってから、アンドレイらに代わる新しいスター記者が登場してきた。彼らは毎日、「プーチンは悪い、ロシア兵の振る舞いはとても悪い」と書きたてている。

「...今日、ウクライナ軍は 1000 人のロシア人を殺し、500 台のロシア軍戦車を破壊した」というぐあいだ。

彼らはこのように、気に入られるような嘘をつくから、ツイッターで 100 万人のフォロワーを獲得するのであって、これは本当の報道ではない。

でも、もしあなたが軍隊の腐敗について実際の例を挙げて、真実を書いたら...有名にはならないし、問題を抱えることにもなるでしょうね」

アンドレイは、戦取材のためにウクライナに滞在する外国人ジャーナリストの取材手配や翻訳など、フィクサーとしての仕事も増えてきた。

「ヨーロッパのさまざまな国から来た十数人のジャーナリストと仕事をしました。その全員がショックを受けています。彼らはこの状況が信じられないと肩を落としながらウクライナを後にしました。

しかし、そのショックは、戦争に関する彼らの記事には一切反映されませんでした。彼らの記事には、ウクライナは勝利への道を歩んでいると書かれていました。が、それは真実ではありません。

**兵士と志願兵は、ウクライナ軍が市民を危険にさらしていることを確認する**

7月、私たちはクラマトルスクのホテルに一泊したが、ホテルの宿泊客にネオナチのアゾフ大隊の兵士がいて、怖い思いをした。



**アゾフ軍団の将校と、アメリカやカナダの制服組が握手（2017年11月 アゾフのHPで公開）**

8月4日、アムネスティ・インターナショナルは調査結果を発表した。周知のごとく、レポートは2月の開戦以来、ウクライナ軍が学校や病院に基地を設置していることをあきらかにした。そして民間地域で武装攻撃システムを運用することで民間人を盾代わりにし、危険にさらしていることを明らかにした。これは国際法違反である。

報告書発表後には大規模な世論の反発があった。アムネスティ・インターナショナルは現在、抗議を受け、ウクライナ軍の行動を「再評価」する予定だ。

しかし、ウクライナの兵士や外国人ボランティアは、ウクライナ軍が民間地域に大きな存在感を維持していることを確認している。

イワンは言う。

「我々の基地はほとんどソ連時代に作られたものだ。ロシアは我々の基地を知り尽くしている。だから  
兵士や武器を他の場所に分散させる必要があるのだ」

## 6 . 元米軍兵士ベンジャミン・ベルクロ（仮名）の証言

ウクライナ軍では外国人兵士も活動している。ベンジャミン・ベルクロという仮名を名乗る元米軍兵士は、ウクライナ軍の外国人部隊「ウクライナ領土防衛国際軍団」の志願兵として戦った。

彼は5カ月間ウクライナ各地に滞在したが、兵士が民間地域に駐屯することはよくあることだったという。

「ロシアが学校を爆撃したという話を聞いたときに、私はちょっと肩をすくめてしまう。なぜなら、私は学校の中に駐屯していたからだ。

それが事実だ。

学校には子供がいなかったから、子供を危険にさらすようなことはしていない。

だから、ウクライナの当局が「あ！学校が攻撃された！」と言えはいいだけなんだ。

“学校を攻撃したんだ!”

そうすれば、ウクライナ側は簡単にメディアのシナリオを作ることができるんだ」

イワン同様、ベルクロもウクライナの勝算を悲観している。

「ウクライナには勝ってほしい。ウクライナには2014年以前の国境線を取り戻してほしい。

しかし、それが可能だと思うか？ いいや、そうは思えない。

クラウドファンディングだけで永遠に戦争を維持することなどできはしない」

\*Several interview subjects requested to be quoted under assumed names to protect themselves from potential danger